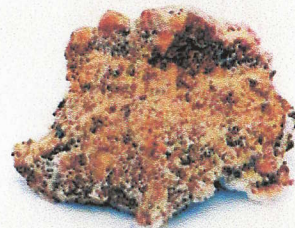


「バシディオマイセテス-X」という新種のキノコが、いま話題を集めています。どんな機能があるのか、その正体を探ってみました。

注目の新種キノコ 「バシディオマイセテス-X」で、 アトピー性皮膚炎の改善を！

バシディオマイセテス-Xは、
天然のキノコ



バシディオマイセテス-Xの塊

古くからキノコ類は、免疫力の向上や抗菌、老化防止などの生理機能活性化作用があることから漢方薬や民間薬として用いられてきました。近年においても、さまざまな薬効成分があるとして研究が進められていますが、そんななか、新潟と福島県境にある新潟県入道村で新種のキノコが発見され、注目を集めています。バシディオマイセテス-Xと名付けられたキノコは、シタケの仲間の担子菌類の一種。見た目はシタケに似た形の菌糸の塊であることから、

発見された当時は「白トリュフ」と間違われていました。しかし、トリュフのような強烈な匂いがないことから、よく調べてみると全く新しい菌類であることが分かったのです。

新潟薬科大学の応用生命科学部食品機能・分析化学研究室の小西徹也教授の研究によれば、バシディオマイセテス-Xは、活性酸素を消去させる抗酸化活性が高いといことが、実験により確認されました。この内容は平成17年に開催された「第10回日本フードフューチャー学会」及び同年の「第27回フーラジカル学会」でも発表され、今後は健康食品や調理・加工食品素材としての活用も期待されます。さらに、聖マリアンナ医科大学では、リンパ球活性化など免疫調整機能も認められ、ますます注目度が高まっています。

バシディオマイセテス-Xの特徴は、アトピー性皮膚炎の赤みやかゆみの原因のひとつ

アレルギー疾患に期待大！

アレルギー疾患に期待大！

とも言われる過酸化脂質の増加を抑える「抗酸化」と、人間の防御システム（免疫）の調整を図る「免疫調整」という2つの機能が挙げられます。

成分の抗酸化活性は、アガリクスの2.2倍強ともいわれ、これらはアトピー性皮膚炎にとって大変重要な効能です。また、バシディオマイセテス-Xは食用にも適している、安全性も証明されています。

「抗酸化+免疫調整」機能

バシディオマイセテス-X組成物のヒトへの試験結果 (アトピー性皮膚炎患者への臨床試験)

「バシディオマイセテス-X組成物」のヒトへの試験試験について
監修：九州大学名誉教授 野本龜久雄
実施者：医療法人 普見皮膚科医院 院長 普見紀久男

臨床試験の概要

アレルギー疾患をもつ20歳から74歳までの22名を対象に、連続して2カ月間、1回5粒を1日3回摂取。錠剤の1粒はバシディオマイセテス-Xを乾燥させ、粉末にした200mgを打錠（錠剤の形に圧縮させたもの）しました。試験前と2カ月後の試験後に、血液検査における生化学検査を実施。加えて、バシディオマイセテス-X試験前後の症状を示す写真撮影、試験によるQOLの評価アンケートを行いました。

試験前後の症状の比較

Aさん(72歳 女性)



試験前は赤みとかゆみ、鱗屑が落ちる落屑がありました。見ての通り、首に境界線があったのも特徴ですが、試験後はその境界線も取れ、症状も随分おさまりました。

Bさん



この患者さんは長期(2~3年)にわたり、顔全体に赤みとかゆみが激しく、同時に肌全体が乾燥していました。試験後、一気にかゆみが減り、全体的に赤みが薄くなりました。

試験前後の血液検査の比較

① 肝機能の改善

女性グループはALTが有意に低下。

肝臓は新陳代謝に必要な栄養を身体に配給している臓器。試験後、肝臓障害によって増加するALTの数値が下がったことは肝機能の改善を示している。

② CRPの低下

男性グループにおいて、CRP値が低下。

CRPとはC反応性タンパク質のこと。炎症が激しいほど数値が上がりますが、試験後に減ったということは、炎症が軽減したと推定できる。

監修 普見紀久男

九州大学医学部卒業後、九州大学助教授、鹿児島大学教授、久留米大学教授を歴任。日本皮膚科学会専門医・名誉会員。昭和50年から「普見皮膚科」の院長に就任し現在に至る。